



心を感じるとき

私の知り合いが宮城県と茨城県にいます。計3名。友人・同僚・恩師です。平成23年に起きた東日本大震災のときには、3人となかなか連絡が取れず、大変心配しました。なかなか連絡も取れなかったのですが、その中の一人、恩師とようやく電話が通じるようになったため、震災後数日経って、ようやくその方の近況を伺うことができました。

ご自宅は約8割の倒壊。物資がなく、とても困っていらっしゃるようでした。物資の輸送状況も停滞しているようでしたが、いてもたってもいられず、とりあえず送ることができるものだけでも送ってみようと思い、近所のお店に物資の調達にいきました。福岡ではありましたがお店の中は売り切れのものが多く、当時の日本の状況を感じずにはいられませんでした。

「あの…空き箱を譲っていただけませんか？」

かごの中に水や紙、マスクなどを入れた私がそう尋ねた瞬間、お店の方は全てを察してくださったようで、こんな声をかけてくださったのです。

「いいですよ。ちょっと待っててください。他に必要なものは？カイロとかはいいですか？」

お店の方の心づかいを感じ、涙が出できました。

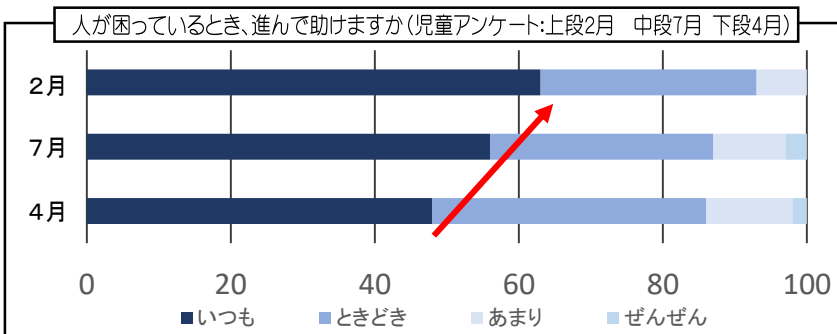
右の詩は、当時、コマーシャルでよく耳にした詩です。「思い」が「行為・行動」になったとき、その人の心を感じます。私たちは日頃どんな心づかいを、どんな行為・行動に表すべきなのでしょう。

困っているから、そうではないからではなく、思いをおしはかり、行動することは、これからも大切にしていきたいものです。

その知り合いには「がんばって」という声はとてもかけることはできませんでした。「これ以上できない」というくらいがんばっていらっしゃるのですから。

「一緒にがんばらせてください。」できたのは、そんな声かけだけでした。

人	心	行	や	思	思	心	心	
間	が	は	為	さ	い	い	づ	は
が	生	に	し	や	は	か		心
き	生	な	い	り	い	見		
生	る	き	つ	思	は	見	は	え
き	こ	る	た	い	え	な		
ると	こ	と	が	見	な	見		宮
こ	は	き	え	い	え	け		澤
だ			る	れ	れ	ど		章
				ど				二



左は、4月・7月・2月にとった児童アンケートの一部です。このグラフからは、周りの人に対する思いやりの高さや、それを行動に移している子どもの割合が増えていることが見て取れます。優しい思いを行為に表すことができる子どもがこれからも増えていくことを望んでいます。

当時は、連日報道されていたニュースを見ながら、ただただ言葉を失うばかりでしたが、右の写真のような、復興に向かう日本の「底力」を見ることもできました。

そこに学校があり、友だちがいて、家族がいる。電気がついたり、車が道路を走ったりするといった何気ない景色が、こんなにも素晴らしく、ありがたいということを、今、あらためて感じます。本当は自分がないといけないうのに、誰かに任せてしまっているということはないか。誰かのために心と体を砕けているか。この時期、そんなあたりまえのことを大切にしないといけないうときを与えられているように感じます。

